

身近なもので  
防災ポーチ・  
バッグ作り!

自宅で被災するとは限りません。通学・通勤・お出かけのときに災害が発生する事だ  
てあります。となれば、自宅での防災対策はもちろん重要ですが、普段の外出の際から  
のちょっとした意識が大きく自分の体と心を守ることに繋がることも。特別なものでは  
なく、身近にあるものでの対策。取り組んでいきませんか？

助かるもの

助かるもの



アメやチョコレート

災害時は店頭からなくなることもある。糖質や塩分の摂取を効率的に行うことができ、ポーチなどにも入れておきやすい。



充電器

携帯電話やパソコンの充電用として欠かすことができないもの。ソーラー発電できるものや容量などさまざま。



懐中電灯やヘッドライト

災害で電気が止まってしまっても。暗い中を歩くのは危険が伴う。ヘッドライトであれば両手が空くので行動しやすい。



軍手などの手袋

散乱した家具やかげきの撤去などを行う際にも欠かせない。手の怪我などを防ぐ意味合いでも重要になる。



お金

停電になると、電子決済などが行えなくなることも。公衆電話の使用も考えられることから小銭を用意しておくことも。



常用薬

普段飲んでいる薬などを用意しておきましょう。お薬手帳もあると普段通院していない場所での処方にも有用です。



絆創膏や消毒液

気をつけていても、知らぬ間に怪我をしてしまっていたり。血などは他人への不安感を強めたりもするのであると良い。



ゴミ袋や密閉袋

大切なものを水から守ることもできる。また、袋に水を溜めることや簡易トイレに使用することもできる。



ウェットティッシュやティッシュペーパー

断水時にとっても便利。ポーチだけでなく、車内などに置いておくのも良い。



ハンカチやハンドタオル

手を拭くのはもちろん、汚れを拭いたりマスクや包帯のような役割も。傷口の止血や骨折箇所の固定などにも応用可能。



カップや折り畳み傘

災害発生時が天気が良いとは限らない。カップだと両手が塞がることもなく良い。寒さ対策にも一役買います。



非常食

家族の人数分を用意しておきたい。詳細は、2ページで。

災害発生。  
そんなとき  
とる行動!

「大きな災害だ。身を守るために避難しないと」と思うのも致し方ありませんが、もしかすると、その場に留まった方が安全という場合もあります。災害に応じて避難先が変わったり、自宅の安全が確保されているのであれば、避難所ではなく自宅での避難という手段もあるのです。

OFF



自宅を出て避難をするならば、「ブレーカーを落とす」ということをしましょう。停電時には問題がなくても、通电した際、電気コードの破損などを要因とする「漏電」火災も想定されます。2次災害を防ぐためにも、有事のときほど冷静に。

災害の種類によって開設する避難所が変わります。避難場所などの情報は、町ホームページなどで公開していますので、家族で確認し、場所を把握しておきましょう（防災情報については4ページで）。

子ども達だけで遊びに出掛けているときに災害に遭うことだってあり得ます。知っておくだけで、災害に遭った際の不安の大きさが変わることでしょう。「なんとなく」ではなく、正しく知っておくことが重要です。

